

# チャレンジ学習（反転学習）を活かした授業づくり

千葉県鴨川市立田原小学校 渡邊 知子

鴨川市では、幼稚園では月に1回、小学校1年生から4年生は毎週20分、5、6年生は毎週45分の英語の授業を行っています。本校では平成27年度から、高学年で反転学習を取り入れ、英語で生き生きとコミュニケーションを図ろうとする子どもを育てることを目指し、研究を進めています。

## 1 チャレンジ学習（反転学習）って？

習得を授業で行い、活用を宿題とするという従来のスタイルを入れ替える授業方法が「反転学習」と呼ばれるものです。本市では、本校に40台のタブレットを導入し、反転学習に役立てています。外国語学習には、単語や会話の表現等を習得する時間と、それらを活用する時間があります。この習得の時間を、子どもたちが自宅でタブレットを使い、予習する時間としています。事前に教員が習得内容の動画を作り、その動画を入れたタブレットを子どもたちが自宅に持ち帰って予習します。

授業では、子どもたちが自宅で予習してきた内容を活かして、活用の学習を中心に進め

ます。

子どもも教師も「新しいことにチャレンジしよう」という思いを込めて、この反転学習を、チャレンジ学習と名付けました。チャレンジ学習の利点は、授業前に動画を視聴し、会話に必要な単語や表現などを予習することで、授業におけるアクティビティをより充実させられることです。

動画を活用した予習により、授業中のアクティビティの質や量の向上を図れば、コミュニケーション能力を育てることにつながると考えています。

## 2 発達の段階に合わせた活動

低学年の児童は、相手の話や言葉を論理的に理解しようとするより、体感的に捉えることが得意です。そこで、体を動かしながら英語に触れるアクティビティを充実させる必要があります。

中学年の授業は高学年の反転学習につながるように構成しています。まず、第1時にその単元で必要となる単語や表現を重点的に学習し、第2時以降は、単語等を確認する時間を徐々に減らし、コミュニケーションを図るための時間を確保するとともに、アクティビティの内容を工夫しています。

高学年では会話に必要な単語や表現が増えたり、一単語、一文が長くなったりして、反復練習が必要になります。週1回の授業だけでは、次週に既習内容を活かすことも難しく、復習にも時間がかかります。しかし予習動画があれば、いつでも単語や表現の学習ができるため、右図のようにアクティビティの時間を十分に確保することができ、英語でのあいづちや自己表現活動を充実させることも



▲次の授業で扱う表現を使ったALTとHRT(担任)とのデモンストラクションが、児童の予習動画となる

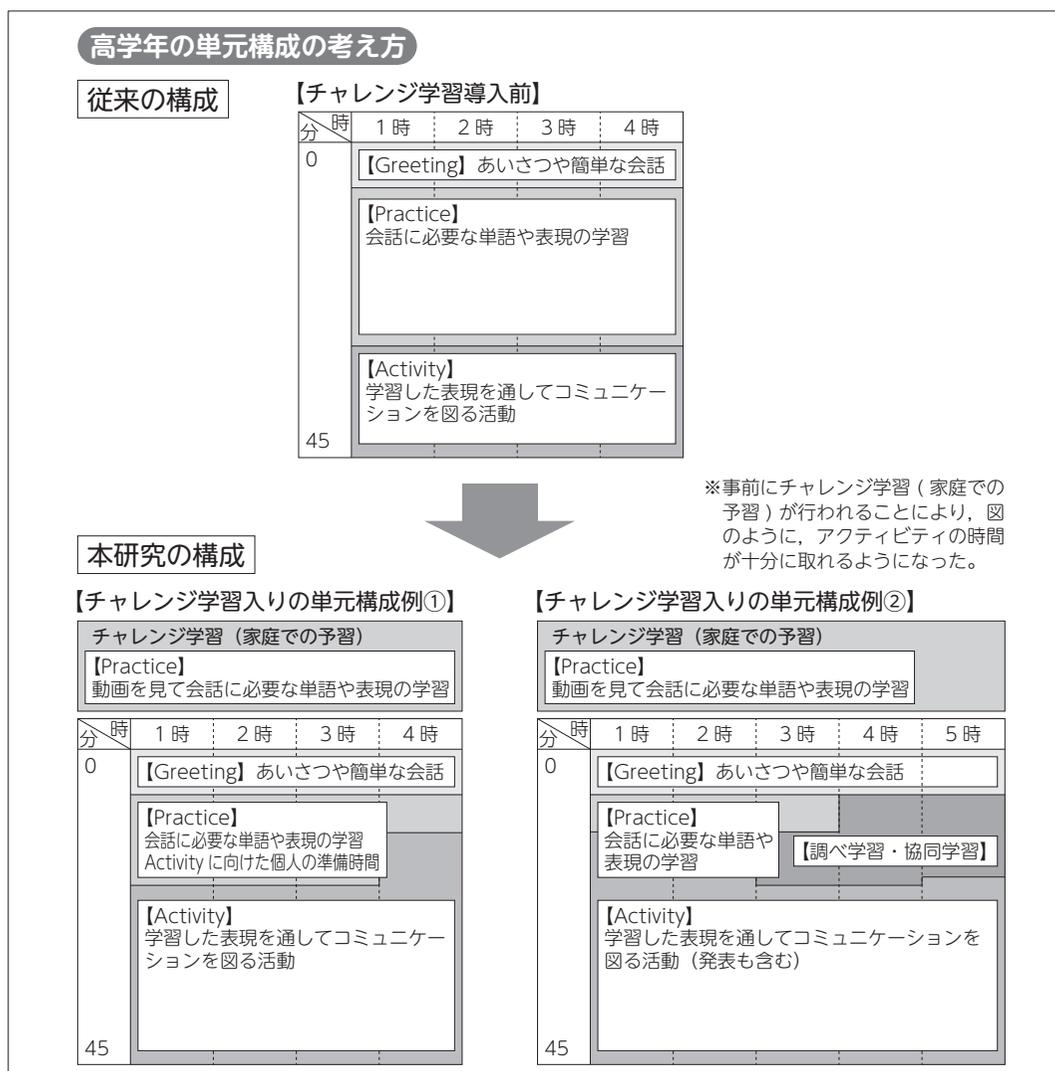
可能になります。

また、コミュニケーションに自分の思いを込めることも高学年の重点事項としています。そこで、ALTに「自分ならではの」表現を教わったり、辞書等で調べたりする調べ学習や、友だちと確認し合う協同学習を単元中盤から取り入れることもあります（下図右下の単元構成例②）。協同学習では、自分が話している様子をタブレットで撮影してもらったり、相手にわかりやすく伝わるよう、各自が画像等を用意したりもします。

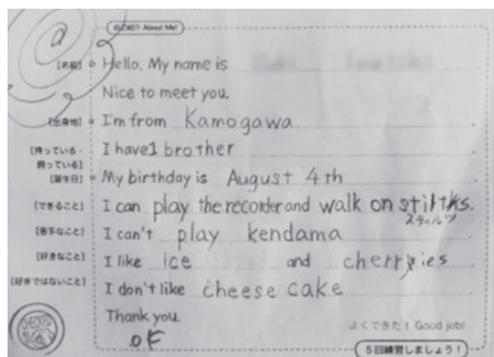
### 3 授業の様子 — 6年生 “Self Introduction” の単元を例に—

6年生の“Self Introduction”の単元では、それまで学習した表現を使って自己紹介をしたり、簡単な質問をしたりすることを目標としています。

まず、自己紹介の流れがわかるような予習動画のお手本を、教師がALTの協力を得て作成します。子どもたちは、家庭でそれを見て、自分の自己紹介の内容を考えて授業に臨みます。英語の表現がわからない部分はワー



クシートに日本語で書いておき、授業でALTやHRT(担任)に質問をしたり、辞書で調べたりします。“How do you say～in English?”と、知りたい単語の発音やスペリングを質問し、以下のようなワークシートを完成させます。その後、各自の自己紹介の内容をALTに英語で話してもらい、それをタブレットで撮影します。これが自分だけの予習動画となります。



動画の作成過程においては、一人一人表現も内容も異なるため、聞いている友だちの理解の助けとなるように、関連する写真や動画などの撮影も、各自に考えさせて行わせました。本校は、幼稚園から同じ仲間です学校生活を送っているため、「友だちにとって意外な自分」を紹介しようと、内容を工夫している姿も見られました。

さらに授業では、「相手に伝わりやすいように、どのような話し方をすればよいか」「自己紹介を聞いて、言いたくなるあいづちは英語でどのように言うのか」「聞くだけでなく、簡単な質問ができないか」など、少しずつ会話が長く続くよう、学習を積み重ねました。

子どもたちは、用意した映像を見せ合いながら、「ゆっくり話した方がいいんだ」「自分と好きな物が同じだったら“Me, too.”って言おう」「かわいいと思ったら“cute”って言いたいな」「○○さんのペットの名前が知りたいな」「写真にあるこれは何？って聞きたいな」等、いろいろなことに気づきなが

ら、友だちの自己紹介に興味をもって学習を進めることができました。

最後には全員の前で発表をすることになっていましたので、落ち着いて話すことができるよう、単元前半はペア活動を多く取り入れました。そして発表時には、子どもたちから積極的に英語で質問が出てきました。



▲好きなものの写真などを自分でタブレットに取り込み、ペアで自己紹介をし合う6年生

## 4 おわりに

このようなチャレンジ学習を通して、授業内容がずいぶん変わりました。また、子どもたちの意欲も向上していると感じています。一方で、予習動画の原稿作成や撮影、編集、タブレット40台へのデータのコピー等、チャレンジ学習の苦労も多く、一般化への道の険しさも感じています。今年度の公開研究会を以下の日程で行います。ぜひ多くの方にご参会いただき、子どもたちの様子を見ていただくとともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。

### 公開研究会のご案内

日時：平成28年11月16日(水)  
13:00～ 研究授業(3年生以上)  
場所：千葉県鴨川市立田原小学校  
(JR安房鴨川駅より車で10分)  
全体講演講師：文教大学教育学部  
金森 強 教授